

寒地 ITS ワークショップ（兼第10回寒地道路連続セミナー）の開催報告

防災雪氷研究室

平成17年8月30日（火）に、北海道 ITS 推進フォーラムとの共催で寒地 ITS ワークショップ（兼第10回寒地道路連続セミナー）を開催しました。今回のワークショップでは、“セカンドステージに向けた地域の ITS”をテーマに、積雪寒冷地の視点から地域の ITS について幅広い議論を行いました。（写真－1）。



写真－1 寒地 ITS ワークショップ開催状況

基調講演では、室蘭工業大学の田村亨教授から「北海道 ITS の方向性」と題して、「みちを使いこなす ITS」と「北海道において求められる ITS 機能」についてご講演いただきました。ITS 開発がシーズ指向から公益指向へ転換が進む中、社会基盤の視点から見て ITS 開発のどこに重点をおくべきか、また、交流人口増加を支援する ITS、持続的発展を支える ITS、救命救急医療を支える ITS、「使える道路」へと育ててゆくために必要な道路機能、道路構造、運用の提案についてのお話をいただきました。

また話題提供として、NPO 法人青森 ITS クラブの葛西章史氏から、全国初の ITS 関連 NPO 法人の設立経緯や NPO のメリット、活動状況、NPO の課題等についてご講演いただきました。活動内容の紹介として、地域に密着した情報発信と継続的な事業運営の取り組み状況について、また、今後の活動として、NPO の中立的立場を活かした行政・企業・市民によるパートナーシップ除排雪情報提供事業等についてお話をいた

だきました。

第1セッション「行政・研究機関からの発表」では、4件の発表がありました。北海道運輸局の城賢次氏からは、平成17年2月に実施した、道内6都市間の都市間バスとJRの「列車運行情報」を提供する「公共交通情報提供実験」について、北海道開発局道路計画課の田村桂一氏からシンガポールから来道した観光客のレンタカーによる「ドライブ観光」の周遊状況やアンケート結果についての報告がありました。また、北海道建設部道路計画課の縄田健志氏から、知床の今後の観光客の増加に対応した標識の多言語化やアクセスルートの整備、道路情報提供装置の充実の取り組み予定について、また、防災雪氷研究室副室長の松沢勝から、吹雪による視程障害の影響、情報提供により事前に吹雪を回避させる「吹雪の広域情報提供サービス」による行動変更・不安感の低減効果などについて発表がありました。

さらに、第2セッション「民間企業からの発表」では、(株)シー・イー・サービスの正岡久明氏から、交通事故の衝突音やブレーキ音等を識別し、“音”発生前後の画像データを保存するシステム TAAMS の内容と事故映像を活用した交通事故対策について報告がありました。また、富士通(株)の田村寿仁氏から、ミリ波センサーを活用した交通量計測機能と視程障害時の多重衝突事故誘発要因の検知機能を有する実験システムについての発表があり、また、(財)日本気象協会北海道支社の岡村智明氏から、携帯電話に画像や写真、地図等のビジュアルなコンテンツを用いた効果的な情報配信や観光情報・寒冷地の道路情報に対する新たな情報提供サービスの可能性についてご講演いただきました。

当日は北海道開発局をはじめ、行政機関、道路関連機関、民間企業、報道機関等から140名の参加をいただきました。開催報告を道路部ホームページ「北の道」(<http://www2.ceri.go.jp/jpn/>)にも掲載しています。当日の配布資料がダウンロードできますのでご覧ください。

（文責：松沢 勝）